

免許とるなら
北方自動車学校

ラボタイムズプラス | 学生による学生の為の地域活動情報誌

Lab. Times⁺ vol.7



日々たくさんの教習生が通っている北方自動車学校。私達がしっかり練習できる環境の秘密を知るために指導員の1日に密着してきました！

9:40 教習車の洗車

教習生が気持ち良く教習が受けられるよう洗車をしています。また、安全のためしっかり点検も行っています。



教習車について

高速教習では環境に優しいハイブリッド車を使用しています。



11:00 技能教習

技能教習では実際に車を運転して運転技術を習得します。指導の際は教習生の意思を尊重した指導を意識しています。



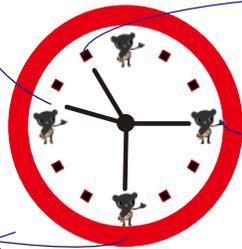
15:00 入校案内

教習が入っていない時間は入校案内や事務の仕事を行っています。



18:00 教習(学科)

学科教習では運転の際に必要な交通ルールやマナーを学んでいます。



宮永指導員

私自身も自動車学校に通っていた頃は上手に運転できませんでした。だからこそ、生徒さんの気持ちになって教習できるのではないかなと思います。北方自動車学校は指名制です。皆様からのご指名をお待ちしています。

KDI 北方自動車学校

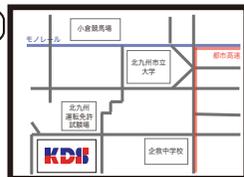
北九州市小倉南区葉山町2丁目7番1号
☎ 0120-154-485 ☎ 093-961-1431
<http://www.kitagata.jds.gr.jp/>

ホームページ



お得な情報をご覧頂けます

ドラスクアプリ



北方自動車学校は 421Lab. の活動を応援しています



TOPIC 1

1.

① 地球では何が起こっている？ ⇨ P.4-5

現在、地球でどのような環境問題が起こっているのでしょうか。ここでは近年深刻化しているごみ問題について見ていきます。

② 421Lab. における環境への取り組み ⇨ P.6-11

北九州市立大学 地域共生教育センター（421Lab.）では積極的な環境への取り組みが行われています。ここでは421Lab.が行う副専攻プログラムと環境関連の学生プロジェクト活動についてご紹介します。

▶ 副専攻「環境 ESD プログラム」の“ESD”とは？

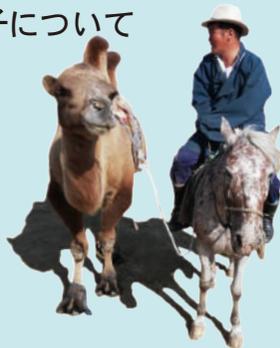
↳ *Education for Sustainable Development*

▶ 授業の概要について

環境 ESD 入門・環境 ESD 演習の内容を皆さんに紹介します。

▶ 環境 ESD の授業の様子について

「環境 ESD プログラム」の授業の様子や学生が行っている取り組みについて紹介します。



▶ 担当教員からのメッセージ

「環境 ESD プログラム」に携わっている先生方からメッセージをいただきました。

▶ 問題から教育へ

多くの環境問題があるなか実際に環境教育に携わっている先生方にインタビューしてきました。

2.

TOPIC 2

1 年生学生運営スタッフの今の気持ち ⇨ P.12-13

運営スタッフとしての1年間の成長を振り返ってもらいました。



3. 短期型地域活動のご紹介 ⇨ P.14

あまり時間がないけど、地域活動をしてみたい方にオススメな活動をご紹介します。



私たちの日常から“地球の未来”を考えませんか？

地球規模の環境や貧困、人権などの課題も、私たちが関心を持ち続けることで日常生活の中から未来の変化へとつながります。さあ、LabTimes+ vol.7 をきっかけに世界に目を向けてみましょう。

地球では何が起きている？

あなたは環境問題について考えたことはありますか？
例えば、地球温暖化やゴミ問題、異常気象による水や食糧の不足など様々な問題があります。こういった問題に対してあなたは取り組んでいますか？環境問題に対して向き合うためにどうしたらいいのでしょうか？

深刻化するゴミ問題

現在、地球上には数多くの環境問題があります。今回はそのなかでも「ゴミ問題」を中心に取り上げました。「ゴミ問題」は普段生活している私たちの周りにも多く存在しています。



1. ごみの埋め立て・処理問題

発展途上国では、ごみを処理する施設が充実していないため、そのままの状態でごみが埋め立てられています。先進国でも、ゴミ問題を解決しようと取り組んでいますが、明確な解決には至っていません。日本でも、あと20年経てばごみの埋め立て場所が無くなると言われています。



2. 海洋プラスチック*ゴミ問題



プラスチックごみは海に流れ、生物が餌と間違えて飲み込み、死に至るなど海の生態環境に悪影響を及ぼします。また、マイクロプラスチック*が拡散することで海洋が汚染されます。また、その他、汚染された海に人が集まらないなど観光業にも被害を及ぼしかねません。

では、私たちがすべきこととは？



今回紹介したゴミ問題以外にも、地球では様々な環境問題が起きています。身近にある環境問題に対し、私たちは何をすべきなのでしょうか？私たちの周りには、実際に行動し、環境問題に取り組んでいる学生がいます。次は、そうした学生の活動を紹介したいと思います。

*海洋プラスチックごみ
ポイ捨てや不法投棄によって、海に流れ着いたプラスチックのこと

*マイクロプラスチック
製造されたプラスチックごみが自然環境中で紫外線や衝突などの影響を受け、破碎され細分化されてマイクロサイズになったもの



421Lab. による環境への取り組み ①

421Lab. は、私たちの身の回りの環境について深く考え、実際に取り組みもを行っています。16 あるプロジェクトの中でも環境に携わるプロジェクトは3つあり、どのプロジェクトも実践を通して環境問題に取り組み、かつ深く学べる活動になっています。

地域クリーンアッププロジェクト

活動頻度：毎週金曜日
第3土曜日に定例活動
昨年度参加人数：39人

清 掃活動を通して地域を変えるきっかけをつくることを目的に活動しています。主に大学周辺の北方校区で地域の方々と一緒に定期的な清掃活動を実施しています。また、小倉北区馬島の漂着ゴミの清掃活動や島の魅力発信など、様々なフィールドで活動に取り組んでいます。



三萩野モラルアッププロジェクト Clear

活動頻度：毎週水曜定例ミーティングなど
昨年度参加人数：7人

三 萩野バス停は高速バスの昇降口であり、「北九州の玄関口」とも呼ばれていますが、かつてはゴミが散乱して薄暗く、利用者が気持ちよく使える場所ではありませんでした。そこで、これらの問題を解決し、三萩野バス停の価値を向上させる為に、地元の企業の方々と共同で、毎週のゴミ拾い活動や啓発活動・広報活動を行なっています。



青空学プロジェクト

活動頻度：週に1回の定例活動
昨年度参加人数：10人

環 境という大きな分野の中で自分達が出来ることを考え、企画、実行しています。主な活動としては、北九州市の公害に関する地域の方々へのインタビュー活動、環境学習研修への参加、環境シンポジウムの企画や運営に学生スタッフとして参加することです。活動を通じては、知識を深めるだけでなく、北九州市の多岐にわたる魅力を発見することが出来ます。



対馬の漂着ゴミ調査 by 地域クリーンアッププロジェクト

2019年11月9日、10日の2日間、421Lab.の地域クリーンアッププロジェクトに所属する学生6名が日本の離島で最も漂着ゴミが多いと言われている長崎県対馬へ調査に行きました。普段は北九州の離島である馬島の漂着ゴミ問題に取り組んでいますが、今回は対馬の現状や漂着ゴミ問題に対する取り組みについて学び、今後の活動に活かすために調査を行いました。



どの海岸も衝撃的なゴミの多さでした。

ほとんどのゴミは海外のものばかりで、中には医療器具など危険な物もありました。しかし海外では日本のゴミが漂着している場所もありますし、漂着ゴミ問題は国際的な問題であるということを改めて認識できた良い調査でした。また海岸の調査だけでなく、漂着ゴミ問題に取り組んでいる一般社団法人対馬CAPP Aさんに、対馬の現状やその取り組みについてインタビューも行いました。私たち学生にも出来ることが多く、学生からもさっそく取り組んでみたいという声が多く上がりました。私たちの日常の取り組みだけでなく、関連する外部団体の取り組みを知り、私たちの活動に取り入れることはプロジェクトとメンバーの成長に必要不可欠だと思います。



地域創生学群 3年
梶原 大史さん

普段の北方地区の定例清掃とはスケールが違う。

ゴミの量もサイズも馬島と全然違いました。具体的には、冷蔵庫や漁に使用するであろう漁具や、流木がありました。流木といっても枝の集まりのようなものではなく、丸太のような本当に大きな流木でした。これらは人の手だけでゴミ処理をするのは困難なので、機械を使わないと出来ない深刻な問題だと感じました。コストがかかり、自分たちの活動で行っている定例清掃のように気軽に出来るものではない点で難しい問題だと感じました。



地域創生学群 1年
浦口 鷹さん



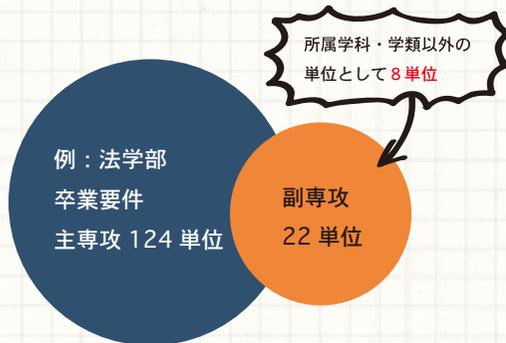
421Lab. による環境への取り組み ②

副専攻「環境ESDプログラム」

421Lab. には持続可能な社会に貢献できる人材を育成するプログラムとして副専攻「環境ESDプログラム」があります。

そもそも副専攻って？

副専攻とは、自分の所属する学部・学科で専門分野（主専攻）を学びながら、それと並行して主専攻を補完・補強する分野、または学際的な領域を体系的に学ぶプログラムです。副専攻で定められた科目を履修し、必要単位を習得すると、その分野を副専攻として修了したことが認定され、『修了証書』が授与されます。副専攻の修了は履歴書にも記載することができます。



環境ESDプログラムの特徴

環境ESD入門

必修科目である「環境ESD入門」では、ESDについて基礎的な学習をします。

環境ESD入門



現在、世界で起きている様々な問題、例えば「環境破壊」、「異常気象」、「国際紛争」などにESDの視点からアプローチするための視点や考え方を、学びます。

この講義を通じて、ESDの基本的な考え方を習得し、さらなる問題意識を持って私たちの生きる社会や環境を見つめ直すことが期待されます。

環境ESD演習

受講生自らが関心のあるテーマについて調べたり、長期休暇中に国内外へのスタディツアーを実施したりしています。これまでに、奄美大島・韓国・ベトナム・カンボジア等を訪問して、現地の環境問題への取り組みを学んだり、現地大学生との交流等を行いました。

環境ESD演習



ESD演習では「持続可能な社会の実現につながる活動の実践」を重視しています。活動の実践を通じて少しでも持続可能な社会のあり方について考え、将来に向けて行動していくことが演習の目的になります。

副専攻担当教員よりメッセージ



岸本 紗也加先生

「環境ESDプログラム」では、自然環境について、社会環境や文化環境を含め、様々な視点から「環境」を学ぶことができます。また、このプログラムでは、一生をかけて、自らの生き方を考えることや、暮らし方を見つめ直す機会を提供しています。「環境」というものは、どの国や地域に住んでいようと、すべての人が共通して一生、何かしらのかたちで関わっています。「環境」について一緒に楽しく、深く、北九州で、そして海外で学んでみませんか？

「環境ESD演習」事例紹介

2019年度モンゴルフィールドスタディ

2019年の夏に行ったモンゴルフィールドスタディでは、学際的かつ実践的手法を用いて「モンゴルの環境の未来可能性」を探求しました。大阪大学、モンゴル国立大学、北九州市立大学の3大学連携で実施され、参加学生は、「協働」、「学習」、「未来可能性」をキーワードに、モンゴルの大自然、遊牧文化に触れつつ、現地の生態環境の現状・課題について学びました。

STEP 1 事前学習

2019年6月～出発まで



スカイプ会議の様子

テーマに沿って、各大学それぞれ調査や作業をしました。
<北九州市立大学>学生3名
・北九州市の公害の歴史と教訓についてのまとめ・北九州市民の環境意識の調査
<大阪大学>学生7名
・過去のフィールドスタディの成果のまとめ・モンゴルの未来設計について。
・環境教育の手法の検討について。
<モンゴル国立大学>学生3名
・モンゴル人の環境意識調査、モンゴルの概要と環境問題について
・モンゴルの環境教育と活動について

STEP 3 事後報告

帰国後



大阪大学で行われた報告会や環境ESD入門での成果発表、またモンゴルフィールドスタディ報告書の執筆を行いました。モンゴルの雑誌や新聞では、私たちの活動成果が掲載されました。

STEP 2 現地学習

2019年8月11日～8月20日



専門家のご指導のもと自然環境を観察したり、遊牧民や現地の学生、市民の方々に聞き取り調査を行いました。その後、フィールドスタディの成果をまとめました。

STUDENT MESSAGE

モンゴルに行って本当に良かったです。モンゴルは朝と夜が日本の冬並みに気温が下がります。私たちは、暖房もない電波も繋がらないお風呂も入れないなど、普段の生活とは全く違う環境で過ごしました。しかし、モンゴルの学生、大阪の学生、北九州の学生とそれぞれ環境が違う人たちが協力し合うことで約10日間乗り切ることができました。キャンプ地で皆でみた視界いっぱいに広がる星空はずっと忘れないと思います。





『環境問題』から『環境教育』へ

現在「環境教育」の重要性が広く知られるようになってきました。
ここでは実際に環境に携わっている先生方に環境教育とはどのようなものなのか、
またどのように考えているのかをうかがいました。



琉球大学
大島順子准教授

現在の環境問題は、自然破壊はもちろん、社会貢献、文化環境などとても幅
が広いんです。だからこそ自分が何を専門として環境を捉えるのかが重要に
なっています、環境教育を行う際に私が大切にしていることは学生一人ひと
りに「自分に何が出来るのか」ということの筋道や全体像を見せてあげるこ
とだと思っています。環境問題を見ることは、今の社会を見ることですからね。
環境について考えるのは面白いですよ。

環境教育学、持続可能な開発のための教育、
地域開発等を研究分野としている。

私は「生きること」や「食べること」といった観点から環境を見ています。
授業では現在の環境問題などについての情報は提供しますが、その中で何を選択す
るかは自分次第だと思います。実際にやって、味わってみたいことには行動は変わっ
ていかないと思うので、「なんで環境を良くしなければならないのだろう？」という
問いに、自分の言葉で答えが出来る学生が生まれることが環境教育を行う意義だと
考えています。



北九州市立大学
廣川祐司准教授

環境影響評価や環境政策
等を研究分野としている。

教育は **対策** のひとつ

環境を学ぶときには、ただこの環境問題がいけない
というわけではなく、自分から問題を考え、
どう取り組んでいくべきかを学んでいくことが大切
だと思います。



私たちの日常から“地球の未来”を考えませんか？

今回の LabTimes⁺ では「環境問題」について取り上げました。
私たちが日常を過ごしているなかでも、地球では「環境問題」が
深刻化しています。私たちが「環境問題」を自分のこととしてと
らえ、解決のために何が出来るのかを考えていくことが大切だと
思います。あなたも日常から“地球の未来”を考えてみませんか。



1年生学生運営スタッフの今の気持ち。

421Lab. に来て約1年、1年生の運営スタッフ3人に今の気持ちを聞いてみました。普段知ることのできない運営スタッフのココロの内側をちらりと公開します。



企画発信班

Q3 運営スタッフになって成長したと思いますか？

様々な企画を通して学内外に421Lab.の魅力や情報を伝えます！

伊地知：めちゃくちゃ成長しました！最初は人前に立つことが苦手でした。近隣の小学校の大学訪問企画で生徒たちを迎える練習の時もすごく緊張して、手足が震えて、焦ってばかりでした。ですが本番が成功してからは人前に出ても震えなくなったし落ち着いて話せるようになりました。ひとつひとつの行事もやりきった後は「やっと終わったー！」とかではなくて、なんか寂しい感じになります。それだけそれぞれの仕事にやりがいを感じています！



経済学部 伊地知 里実さん

Q1

学生運営スタッフになる前のイメージを教えてください。

広報班

広報誌やSNSを通して学内外に地域活動の宣伝や情報・魅力を発信します！

村上：私が北九州市立大学を志望した理由の1つが421Lab. だったんです。受験生の時に実際に421Lab. に所属している先輩にどんなところか聞いたところ「生徒会に近い」と聞いて、それから当時生徒会長をやっていたので絶対に入りたい、大学でも学生のサポートをしたいと思いました。
421Lab. といえば「地域と学生をつなぐ架け橋となる存在」にズキュンとききましたね。地域と学生をつなぎ、地域活性化を進めていく。とにかく所属する前の私にはとても眩しいイメージでした！



地域創生学群 村上 めいさん

Q4 今後の意気込みを教えてください。



村上：とにかく私はすぐ1人で突っ走ってしまいがちなところがあるんです。仕事いっぱい溜め込んで「あー、1人じゃ無理だった」と後悔することが何度もありました。私は最近、421Lab. はプロジェクトも運営スタッフも全てがひとつのチームであり、一緒に活動する場なのだ改めて気付きました。今後は運営スタッフの一員として、自分の特技を活かして活動していきたいです！

宗：来年は後輩もでき、自分たちがリーダーを務めることも増えると思います。それに伴い、とにかく広い視野を持ちたいと思っています。僕はアシスト班の中でも研修を担当しているのですが、421Lab. に所属している多くの学生たちをサポートするため、もっと多くの取り組みを増やすべきではないかと考えているんです。その企画を考えるため、そして学生たちのニーズに応えるためにも多方面から貪欲に学び続けていこうと思っています。

アシスト班

Q2 入った直後のイメージはどうでしたか？

研修や勉強会を企画し、421Lab. で活動する学生をサポートします！



地域創生学群 宗 凌佑さん

宗：実習の活動自体メンバー1人ひとりのモチベーションが本当に高く、絶対中途半端な気持ちで活動はできないし、先輩たちみたいに貪欲にいろんなことに挑戦していくことで、自分のしたいことが見つかるんじゃないかと期待も膨らんでいました。アシスト班の中でも研修担当として実習を行っていく中で、楽なことは一つもありませんでした。先生が学生に求めるものが今の自分の能力と比べるとすごく高いから、悩むことも多いです。でも、終わった時は達成感をすごく感じます。それに一緒に実習を行う先輩たちも個性あふれていて。今では421Lab. にいて飽きることなんてないです！

取材を終えて

今回は421Lab. の運営スタッフに取材をしてきましたが、421Lab. の存在意義について改めて考えさせられました。普段あまり語り合うことのない他のメンバーの体験談や意気込みから今後の421Lab. を感じることができました。(取材担当者)

短期型地域活動のご紹介

421Lab.には、時間があまりないけど地域貢献したい人にオススメの1日から始めることのできる地域貢献活動があります。

今回は子どもやお年寄りの方々と交流したい方にオススメしたい短期型地域活動をご紹介します。興味のある方はぜひ421Lab.に足を運んでみて下さい！

1. 子どもの館 HOW!? @北九州市子どもの館

(平日)

10:30~15:15

12:15~17:00

13:45~18:00

(土日)

14:45~19:00 (それぞれ休憩時間あり)



内容：各コーナーで子どもたちの遊び相手、工作材料の準備や制作のお手伝い、環境整備、清掃、安全管理、イベントのお手伝い

※活動にあたり、ボランティア保険への加入が必要です。

※毎週土曜16時~の事前説明会に参加してください。

2. シニア向けスマホ教室 @北九州市いきがい活動ステーション

内容：スマホ教室で、説明と違う操作をしていたり、操作に困っている参加者のサポート。



気になる活動があれば
2号館1階
421Lab.へGO!!



編集後記

今回は、Lab.Times⁺ vol.7 を手に取っていただきありがとうございました。

Vol.7のテーマは「環境問題」でした。
最近ニュースやSNSなどで話題になる環境問題の数々。

そのような問題に対してみなさんに1度立ち止まって自分自身で考えてもらいたいと思いこのテーマで特集を組みました。
このLab.Times⁺が、みなさんの日常生活を見直すきっかけになれば嬉しいです。

また、今回はLab.Times⁺ vol.7の作成にあたって本当にたくさんの方のお力添えをいただきました。ご協力いただいたみなさまにこの場をお借りして感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

今後ともLab.Times⁺をよろしくお願い致します！

421Lab. 広報班一同



発行：北九州市立大学地域共生教育センター

発行日：2020年2月

編集：北九州市立大学地域共生教育センター
学生運営スタッフ 広報班 18名

〒802-8577 北九州市小倉南区北方4-2-1

[Tel] 093-964-4092

[Mail] info421@kitakyu-u.ac.jp

▼Twitter



▼Facebook

